

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：10102

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13948

研究課題名（和文）子ども福祉施設における幼児教育実践と母性規範・新教育思想の関係に関する社会史研究

研究課題名（英文）A Social History on the Relationship between Early Childhood Education Practices, Maternal Norms and New Education Thought in Child Welfare Institutions

研究代表者

稲井 智義（Inai, Tomoyoshi）

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：30755244

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：子ども福祉施設男性指導者の教育思想を、幼児教育を含む学校制度と研究組織、母性規範、新教育思想との関連に留意して明らかにした。岡山孤児院の看護を専門的に学んだ女性職員と年長女児が担い、裁縫教育と幼児教育を私立高等女学校卒業生が担っていた。これらの領域に母性規範があった。英語で初めて書かれた近代日本の子ども観研究の意義は、貧困層と幼児のエージェンシーや親の性役割の視点から日本幼児教育史をとらえる点にある。アナーキズムは母性規範と公教育を脱構築する可能性を持つ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子ども福祉施設における近代教育思想において学校・家族・国家の存在が一貫していると同時に、それらの関係は変化していた。岡山孤児院の女性職員は看護や裁縫教育、幼児教育に従事していた。日本の子ども・家族・女性に関する英語圏の研究を蒐集し読解した。その結果、女性が従属的に置かれる教育と福祉の領域をアナーキズムとフェミニズムの視点からつくりかえていく可能性が明らかになり、今日の公教育変革への手がかりを得た。

研究成果の概要（英文）：The educational thought of the male leaders of the child welfare institutions was clarified, paying attention to the relationship between the school system, including early childhood education, the research organization, maternal norms, and the new educational thought. The nursing care at the Okayama Orphanage was provided by professionally trained female staff and older girls, while sewing education and early childhood education were provided by graduates of two private high schools for girls. Maternal norms were present in these areas. The significance of this first study of modern Japanese views of children written in English is that it captures the history of Japanese early childhood education from the perspective of the poor and infant agency and parental gender roles. Anarchism has the potential to deconstruct maternal norms and public education.

研究分野：教育史・幼児教育・教育政治学

キーワード：子ども福祉施設 幼児教育実践 母性規範 アナーキズム 看護 フェミニズム 岡山孤児院 公教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、近代日本の子ども福祉施設における幼児教育実践と母性規範・新教育思想の関係に関する社会史研究である。第一に1960年代の幼児教育史研究は、孤児院や保育所でも貧困層の子どもに遊びを提供して主体性を育もうとする新教育思想が見られたことを指摘した。しかし女性保育者の資料を十分に分析していないため、その詳細は明らかにされていない。

第二に近年の研究は、社会史研究が指摘した、母親が子育てを担うべきとする母性規範を男性指導者が抱き、それが施設の職員体制に現れていたことを明らかにした。複数の保育所における母性規範の存在や母子保護に注目した英語圏の日本子ども史・女性史研究者キャサリン・ウノ (Kathleen S. Uno) の単著 *Passages to Modernity: Motherhood, Childhood, and Social Reform in Early Twentieth Century Japan* (1999) もある。

とはいえ孤児院と保育所における幼児教育実践と母性規範・新教育思想の関係を、女性保育者が直面した困難さや課題とともに明らかにすることは課題である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、子ども福祉施設における幼児教育実践が、母親が子育てを担うべきとする母性規範や、子どもに遊びを提供して主体性を育もうとする新教育思想とどのような関係にあったかを、社会史の観点から解明して、同時に国内外の研究動向を総括して、日本幼児教育福祉史像の刷新に寄与することである。

## 3. 研究の方法

主な研究方法は、女性保育者の資料と施設資料、英語圏を含む先行研究を蒐集して分析することである。

## 4. 研究成果

### (1) 子ども福祉施設と教育思想の社会史

2022年11月に単著『子ども福祉施設と教育思想の社会史：石井十次から富田象吉、高田慎吾へ』を刊行した。コラム(2021年7月)と巻頭言(2022年8月)を執筆し、加筆修正をしたうえで単著の補論1と補論2とした。

本書を通じて、近代日本で子ども福祉施設を開拓した指導者の教育思想が、共同体から排除されて施設に来た子どもを家族と学校、国家に囲い込むものであったことを明らかにした。同時に本書の最大の意義は、子どもを中心にすえ、子育て責任を母親に負わせる以上の近代教育思想に還元され得ない側面を、子どもを経済問題ととらえる高田に見出した点にある。晩年の高田はアナーキストのクロポトキンの『麵麩の略取』を読み、働く女性の余暇拡大と教養形成のために託児所があると考えた。したがって今後の課題は、親子関係を休ませる余暇とアナーキズムの視点から、公教育と福祉の役割をとらえ直すことである。

同書は東京大学学術成果刊行助成(東京大学第三回而立賞)に採択された著作であり、自著紹介(日本語と英語)をUTokyo BiblioPlazaで執筆した。『日本教育史研究』でも書評に取り上げられ、「書評に答えて」と題して執筆背景と今後の研究課題を整理した。

### (2) 女性と母性規範

女性と母性規範について扱った成果としては次のものがある。

第一に、佐々栄(富田栄子)の履歴書を復刻して解説を執筆した。佐々栄(富田栄子)は、石井記念愛染園の乳幼児の養育と教育に関する事業を担った人物として知られてきた。この解説を通じて、日本女子大学校を卒業した後に岡山孤児院に就職した際に、同窓で先に孤児院に就職していた人物の紹介があったことを明らかにした。

第二に、裁縫教育と幼児教育の担い手に関する資料を紹介した。ここでは、青山女学院の卒業生が裁縫教師を務めたこと、熊本女学校の卒業生が幼稚園主任と裁縫教師を兼務したことを示した。プロテスタント主義の女子中等教育機関の二人の卒業生が、半年にも満たない期間ではあるものの、岡山孤児院の女性教育職になっていたことが示された。

第三に、1900年前後の岡山孤児院における看護と病気について看護婦の経歴と仕事に着目して明らかにした。岡山孤児院の看護婦は、子どもの病気に対する看護の中心を担っていた。同時に年長の女子たちは看護の仕事を支え、何人かは卒院後に専門知識を学び看護婦になった。看護とは岡山孤児院が必要とする技術であったと同時に、孤児院卒業女性の専門職になるための限られた教育機会と進路であった。女性職員と女子が看護を担っていたこと

は、孤児院における母性規範を示している。

岡山孤児院を扱っていないものの、以下の成果がある。教育学者の持田栄一が1970年前後に公教育運営に親が直接参与するための理論を、国分寺市の母親たちの学習活動によって具体化したことを明らかにした。この取り組みは母親が公教育運営に参加していく事例であり、女性が公的領域で男性より従属的地位に置かれる母性規範が相対化され得る可能性を示した。

あわせて二つの学会シンポジウムでコメントと報告をした。その成果は、子ども福祉施設と幼児教育を再考するアナーキズムとフェミニズムの可能性を提案した論文にまとめた。

### (3) 新教育と幼児教育実践

必ずしも子ども福祉施設に関わらないものの、新教育と幼児教育実践について検討した。

第一に、探究、「かもしれない世界」、幼児の主体性に関する教育実践について考察した。まず幼児教育における探究について、幼稚園教育要領の変遷に即して検討した。探究(探求)への関心が戦後の『保育要領』でも見られ、1956年と1964年の幼稚園教育要領で衰退して、1989年以降の幼稚園教育要領で高まっていることを明らかにした。その際に、レッジョ・エミリアの幼児教育やリゾームという視点にも言及しながら、今日の幼児の探究活動実践が持つ意味についても考察した。次に佐伯胖の「かもしれない世界」が持つ教育政治学的意義を示した。最後に、教師に呼びかけられて寝る幼児の姿に主体化と服従化のパラドックスを指摘しながらも、自ら寝る幼児の姿を通じてアナーキズムな教育に転換する可能性を指摘した(小玉重夫「政治教育とシティズンシップ」『女性展望』718号、2022年参照)。

第二に、幼稚園教育要領における道徳と公共の変遷に着目しながら、それらとは一線を画する、公共性をはぐくむ幼児教育(パブリックな幼児教育)のあり方を示した。そのため第一に、1964年以後の幼稚園教育要領を分析した。第二に、お茶の水女子大学附属幼稚園の実践記録を検討した。道徳と公共の語は1964年の幼稚園教育要領で、初めて使われた。1989年改訂以来の幼稚園教育要領で用いられる公共心は、社会に対する個人の責任を強調した。それに対して、お茶の水女子大学附属幼稚園での公共性は、異質な他者と共にあることを意味する。同園の実践は、身体で思考する幼児、教師と幼児の集団変容という二つの特徴があった。こうした実践は、2017年幼稚園教育要領における「道徳性・規範意識の芽生え」を始めとする“10の姿”に暗示される評価観とも論争的な関係にある。

第三に、「教育と子ども福祉の探究」と題して実施した高校模擬講義の内容を示し、生徒コメントを検討した。教育学研究の基礎知識や「みんなの学校」としての大阪市立大空小学校の特徴、旭川市の子ども福祉施設について紹介しながら、教育と子ども福祉のあり方を組みかえる朝井リョウの文学作品と探究活動の意味を考察した。

第四に、石井十次の紙芝居(今井よね作・平沢定治画)教材(道徳・社会科教育資料)、子ども向け伝記(比江島重孝の作品)について検討し、次の知見を得た。岡山孤児院を設立した石井十次は戦後日本の道徳・社会科教育の資料と教科書で紹介され続けていた。さらに戦後の新教育関連資料(小原國芳編『美』玉川家庭教育第三巻、玉川大学出版部、1979年3月、「孤児院を開いた石井十次：社会事業」)でも岡山孤児院が紹介されていた。

### (4) 国内外の幼児教育史研究の動向

国内外の幼児教育史研究の動向について検討した。

第一に書評を執筆した。対象図書は、『近代家族の誕生』、『戦後日本の夜間中学』、『おいしい給食 卒業』、『戦後教育史』である。第二に研究ノートを執筆した。『「保育の質」を超えて』を手がかりに、日本の幼児教育学・幼児教育史と英語圏の研究動向を比較した。その際に、ウノの単著の概要(ペーパーバック版裏表紙に記載)を翻訳した。

ウノの単著については、2022年の単著で言及し、この間の論文でもその内容の一端を日本語で読めるようにしてきた。ウノの単著を、近代日本の子ども観の歴史に関する英語圏の先駆的研究と指摘する文献を見つけた(サビーネ・フリューシュトゥック『「戦争ごっこ」の近現代史：児童文化と軍事思想』中村江里・箕輪理美・嶽本新奈訳、人文書院、2023年)。

以上のように研究期間全体を通じて、単著を刊行し論文と資料紹介、書評を執筆した。岡山孤児院以外の子ども福祉施設については十分に検討できなかったものの、単著では可能な限り子ども福祉施設と幼児教育施設の情報を記載した。アナーキズムという視点は、当初の研究計画では想定してなかったものであり、今後の教育学研究・子ども学研究において重要な知見である。ウノの単著についても英語での書評6点を蒐集して読解し、その今日的な意義を確認した。関連する研究成果を2024年度に公表するように努めたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 74
2. 論文標題 教育と子ども福祉の探究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要：教育臨床研究編	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32150/0002000016	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 24
2. 論文標題 今井よね作・平沢定治画『石井十次』紙芝居刊行会の基本情報	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 石井十次資料館研究紀要	6. 最初と最後の頁 157-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 32
2. 論文標題 （書評）江口怜著『戦後日本の夜間中学 周縁の義務教育史』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 近代教育フォーラム	6. 最初と最後の頁 158-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 63
2. 論文標題 労働組合と教育からアナーカ・フェミニズムへ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会事業史研究	6. 最初と最後の頁 85-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 74
2. 論文標題 公共性をはぐくむ幼児教育の方へ：幼稚園教育要領における道徳と公共の変遷に着目して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要：基礎研究編	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32150/0002000076	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 令和5年度
2. 論文標題 幼児は教師に呼びかけられて寝るか自ら寝るか	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 北海道教育大学附属旭川幼稚園研究紀要（令和5年度）	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 14
2. 論文標題 （書評）『おいしい給食 卒業』2022年：虚構が描く学校外での生徒と教師の政治的実践	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 北海道教育大学大学院高度教職実践専攻研究紀要：教職大学院研究紀要	6. 最初と最後の頁 51-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32150/0002000205	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 22
2. 論文標題 （書評）小国喜弘著『戦後教育史－貧困・校内暴力・いじめから、不登校・発達障害問題まで』（中公新書、2023年）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 インターカルチュラル	6. 最初と最後の頁 119-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57496/jsics.22.0_119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 31
2. 論文標題 持田栄一の「公教育運営への親参与」論における「ひろば」の意義：国分寺市立小・中学校 PTA 連合会から「PTA の外」へ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本教育政策学会年報	6. 最初と最後の頁 124-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 19
2. 論文標題 子どもの福祉と権利の歴史から幼児教育におけるアナーキズムへ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 幼児教育史研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 23
2. 論文標題 岡山孤児院の裁縫教育と幼児教育の担い手 青山女学院と熊本女学校の卒業生	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 石井十次資料館研究紀要	6. 最初と最後の頁 184-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 21
2. 論文標題 子ども福祉施設とアナーキズムの接点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国四国社会福祉史研究	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 令和4年度
2. 論文標題 かもしれない世界と日常の中の異界を覗き込む力	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北海道教育大学附属旭川幼稚園研究紀要（令和4年度）	6. 最初と最後の頁 51-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 7
2. 論文標題 『「保育の質」を超えて』を読む	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会保育実践研究	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 72(2)
2. 論文標題 子ども福祉施設と教育思想の社会史 研究動向の到達点と教育学的可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要（教育科学編）	6. 最初と最後の頁 9-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 22
2. 論文標題 戦後道徳・社会科教育のなかの石井十次	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 石井十次資料館研究紀要	6. 最初と最後の頁 198-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 令和3年度
2. 論文標題 幼児教育における探究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北海道教育大学附属旭川幼稚園研究紀要	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 21
2. 論文標題 佐々栄 (富田栄子) の履歴書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 石井十次資料館研究紀要	6. 最初と最後の頁 207-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 15
2. 論文標題 大石茜著『近代家族の誕生 女性による慈善事業の先駆、「二葉幼稚園」』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 幼児教育史研究	6. 最初と最後の頁 93-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲井智義	4. 巻 25
2. 論文標題 比江島重孝による二つの石井十次伝記の意義	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 石井十次資料館研究紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 稲井智義	4. 巻 43
2. 論文標題 書評に込えて	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本教育史研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 稲井智義
2. 発表標題 労働組合と教育からアナーク・フェミニズムへ
3. 学会等名 社会事業史学会第51回大会シンポジウム「日本の戦後史(2) 労働と福祉と教育の関係を問う 1960年代から70年代に焦点を当て」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 稲井智義
2. 発表標題 子どもの福祉と権利の歴史から幼児教育におけるアナークキズムへ
3. 学会等名 幼児教育史学会第19回大会シンポジウム「子どもの権利と保育・幼児教育：歴史と現状」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 稲井智義
2. 発表標題 孤児を描いた比江島重孝による子ども文学の意義
3. 学会等名 日本教育学会第81回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 土屋敦・野々村淑子編、乙須翼・稲井智義・杉原薫・草野舞・田中友佳子・松本由起子・大森万理子・野崎祐人	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 432
3. 書名 医学が子どもを見出すとき：孤児、貧困児、施設児と医学をめぐる子ども史	

1. 著者名 稲井智義	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 子ども福祉施設と教育思想の社会史 石井十次から富田象吉、高田慎吾へ	

1. 著者名 幼児教育史学会監修、太田素子・湯川嘉津美編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 346
3. 書名 幼児教育史研究の新地平 近世・近代の子育てと幼児教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------